

4-3-2 生活環境

細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
地域美化・環境衛生	①環境美化の取組が進み、快適な生活環境が保たれている。	①4 飼い主のいない猫により生活環境が著しく損なわれている地域が、飼い主のいない猫を減らすために取り組む活動(地域ねこ活動等)を支援します。(環境保全課)	令和元年10月からふるさと生駒応援寄附(ふるさと納税)を活用した飼い主のいない猫の避妊・去勢手術を全額負担する取組を進めた結果、上半期実施分とあわせて162件の避妊・去勢手術を実施した。
		①1 生駒市まちをきれいにする条例及び生駒市歩きたばこ及び路上喫煙の防止に関する条例に基づき、環境美化に関する市民等のモラルの向上と空き地の適正管理等快適な生活環境の確保を図ります。(環境保全課)	歩きたばこ等禁止区域(生駒駅周辺)をパトロールをすることで、市民等への啓発やモラル向上に寄与した。不良状態の空き地等の土地所有者に対する、平成30年度の適正管理指導件数が53件に対して、令和元年度は30件に減少した。
		①3 市民・事業者・市民団体との協働による河川美化活動等の定着を図ります。(環境保全課)	富雄川クリーンキャンペーンを実施し、美観を向上し河川愛護意識の高揚を図った。(参加約150名)
	市民実感度		

細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
都市生活型公害対策	②継続的な公害対策が推進されている。	②4 都市生活型を含む公害の未然防止のため、指導等監視体制を強化するとともに公害発生時の迅速な対応に努めます。(環境保全課)	市民から寄せられた騒音、振動、悪臭等の公害に関する相談を受け、発生源に対して調査を実施し、状況に応じた指導を行った。公害相談件数は平成30年度の14件に対して、令和元年度は12件と減少した。
		②1 市内の環境状況を把握するため、大気質・騒音・振動・水質等を調査します。(環境保全課)	大気質・騒音・振動・水質等の環境測定を実施した。その結果概ね環境基準を満たしていた。結果については「生駒市の環境」で公表した。
		②3 特定施設、特定建設作業の届出と指導を徹底し、作業場周辺の環境を保全します。(環境保全課)	特定施設、特定建設作業の届出と指導を徹底した。これにより、作業場周辺の環境保全に努めた。
	市民実感度		

多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標																						
飼い主のいない猫を減らすため、動物病院、地域ねこ活動サポーター、自治会や地域の人と連携を図った。富雄川クリーンキャンペーンでは、自治会及び事業者の協働により活動した。	・飼い主のいない猫のトラブル減少を図るため、地域ねこ活動や繁殖制限の必要性を啓発する。 ・快適な生活環境の確保を図るため、空き地の実態調査を行い、雑草等が繁茂して生活環境を阻害している宅地を減らす。 ・河川美化活動を継続するため、活動内容の見直しや参加者を確保する。	① 空き地等適正管理指導件数(件) <table border="1"> <tr><th>年次</th><th>実績値</th></tr> <tr><td>H26</td><td>87</td></tr> <tr><td>H27</td><td>68</td></tr> <tr><td>H28</td><td>69</td></tr> <tr><td>H29</td><td>59</td></tr> <tr><td>H30</td><td>53</td></tr> <tr><td>R1</td><td>30</td></tr> <tr><td>R2</td><td>50</td></tr> <tr><td>R3</td><td>50</td></tr> <tr><td>R4</td><td>50</td></tr> <tr><td>R5</td><td>50</td></tr> </table>	年次	実績値	H26	87	H27	68	H28	69	H29	59	H30	53	R1	30	R2	50	R3	50	R4	50	R5	50
年次	実績値																							
H26	87																							
H27	68																							
H28	69																							
H29	59																							
H30	53																							
R1	30																							
R2	50																							
R3	50																							
R4	50																							
R5	50																							
	課題解決のために必要な要素 <input type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()	① 不法投棄の回収量(kg) <table border="1"> <tr><th>年次</th><th>実績値</th></tr> <tr><td>H29</td><td>8,479</td></tr> <tr><td>H30</td><td>11,070</td></tr> <tr><td>R1</td><td>8,197</td></tr> <tr><td>R2</td><td>9,230</td></tr> <tr><td>R3</td><td>8,056</td></tr> <tr><td>R4</td><td>7,915</td></tr> <tr><td>R5</td><td>7,774, 7,631</td></tr> </table>	年次	実績値	H29	8,479	H30	11,070	R1	8,197	R2	9,230	R3	8,056	R4	7,915	R5	7,774, 7,631						
年次	実績値																							
H29	8,479																							
H30	11,070																							
R1	8,197																							
R2	9,230																							
R3	8,056																							
R4	7,915																							
R5	7,774, 7,631																							
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	目指す値 実績値																						
B2	空き地等適正管理指導件数が減少するなど、取組の効果は出ているが、各項目とも環境を維持するため、引き続き活動や啓発を実施する必要があるため。	R1 R1 50 30																						
		目指す値 実績値																						
		R1 R1 8,197 9,230																						

A:5年後のまちをすでに実現している B1:5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2:5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる
C1:5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2:5年後のまちの実現には努力が必要である C3:5年後のまちの実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの5年後のまちの実現に向けた提言等

4-4-1 緑環境・公園

細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
緑の保全	市民実感度	①4 里山の維持、保全、整備及び活用のため、里山整備活動を行う市民団体等を支援します。(みどり公園課)	市民ボランティアによる里山の維持保全、整備等に対して、奈良県の里山づくり推進事業補助金を活用し、年間の計画どおり進んでおり、協働による緑の保全を進めることができた。
		①5 緑化活動を行う市民やボランティアの活動を支援します。(みどり公園課・花のまちづくりセンター・農林課)	市民ボランティアによる生駒駅や東生駒駅の駅前花だんの整備等への支援のほか、まちなかの公共の場所に草花等を植栽する自治会等に対し、花と緑のわがまちづくり助成制度により支援し、協働による緑の保全を進めることができた。
細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
緑の創造	市民実感度	②2 助成制度の活用や花と緑の景観まちづくりコンテストの参加を促し、まちなかの花と緑の創出を図ります。(みどり公園課・花のまちづくりセンター)	花のまちづくりセンターふろーらむを拠点に、花や緑に関する各種教室(約80回、参加者数740人)や、花と緑の景観まちづくりコンテスト(19団体参加)等の開催のほか、助成制度の活用により、市民による「まちなか」の花と緑の創出に取り組んだ。
		②4 地域住民と行政が共に花や緑に関連したまちづくりについて話し合える場・機会を設けます。(みどり公園課)	花と緑であふれるまちに向け、地域住民とともに、緑の市民懇話会(年4回)や、花とみどりの楽校(みんなでつくる駅前花壇)でのワークショップ(年11回)を開催し、花と緑であふれるまちに向けて取り組んだ。
細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
公園整備	市民実感度	③4 指定管理者(企業と社会福祉法人)と連携して、生駒山麓公園の活性化を図ります。(みどり公園課・障がい福祉課)	生駒山麓公園にて指定管理者の自主事業により生産した花苗を、指定管理事業として公園内に植栽する仕組みを構築し、園内の植栽エリアを拡大した。植栽エリア拡大という公園の再整備で新たな魅力を生みだし、利用促進を図った。
		③1 市内公園を安心して利用できるよう公園施設のバリアフリー化を図ります。(みどり公園課)	地域住民からの要望により、公園施設のバリアフリー化を図るべく緑ヶ丘第2公園の階段改修工事を施工し、令和2年度に繰越した。工事完了をもって、公園施設の利便性を向上させることで地域住民が支える公園づくりを進めることができる。
		③3 日常点検に加え、公園施設長寿命化計画に基づき、遊具等を適正に管理します。(みどり公園課)	市内226公園の公園施設長寿命化計画を策定し、長期にわたって遊具等を適正管理するための方針を定めた。令和2年度以降、計画に従い、改修工事をを行うことで公園の再整備や利用促進を図っていく。

多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
市民やボランティア団体による里山の維持保全や緑化活動に対し、財政的支援のほか、市が事務局となり、進行の補助を行うなど、協働して緑の保全に取り組んだ。	市民やボランティアとの協働により緑の保全活動をすすめるためには、原動力となる市民やボランティア団体の継続的な活動が求められるが、構成員の高齢化等によるマンパワー不足への対策として、世代交代と、団体数の拡大を後押しできる取組と財源の確保が検討課題となる。	① 緑地面積の割合(%)
課題解決のために必要な要素		目指す値
<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()		実績値
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	R1
B1	現状、令和元年度の里山の維持保全・整備、駅前花だんの整備事業とも計画どおりに完了したが、令和2年度以降も計画にもとづき、市民ボランティアとともに取り組む必要があるため。	市街化区域内 19.92 市全域 47.87 市街化区域内 19.90 市全域 47.87
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
花と緑の景観まちづくりコンテストの実施や、各種教室、わがまちづくり助成制度による支援のほか、市民懇話会やワークショップを定期的に開催し、花と緑の創造に向け、市民参加の継続に努めた。	花と緑であふれるまちに向け、市民や団体の取組の意識づけの継続と、世代交代を後押しできる取組、今後の財源確保が検討課題となる。	② 花のまちづくりセンターにおける講習会等の回数(回)
課題解決のために必要な要素		目指す値
<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()		実績値
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	R1
B1	現状、令和元年度の助成制度や花と緑の景観のまちづくり事業は計画どおりに完了したが、令和2年度以降も計画に基づき、市民ボランティアとともに取り組む必要があるため。	375 402
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
生駒山麓公園において指定管理者や社会福祉法人と連携し、植栽エリアを充実させ公園の活性化を図るとともに、障がい者就労支援を拡大した。	公園を地域のコミュニティ形成の場とし、公園をうまく活用するための仕組み作りを進めるためには、公園再整備のための費用と、地域住民と公園の在り方などについて話し合うための人員・組織体制が必要となる。	③ 自治会による公園の維持管理の割合(%)
課題解決のために必要な要素		目指す値
<input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()		実績値
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	R1
B2	公園を取り巻く環境や公園利用者の想いは日々変化しており、公園ごとに異なる。その状況の一つ一つ汲み取り、課題を解決した上で地域住民が支える公園を作るためには継続的な取組が必要であるため。	92 93

A: 5年後のまちをすでに実現している B1: 5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2: 5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる
 C1: 5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2: 5年後のまちの実現には努力が必要である C3: 5年後のまちの実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの5年後のまちの実現に向けた提言等

5-1-1 都市活力創造

細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
都市ブランド形成	①主体的に地域に参画し、地域を語る人が増え、生活を豊かにするモノ・コトが生まれる機運が醸成されることで、生駒らしい魅力が形成され、都市ブランド化が進んでいる。	①1 地域課題の解決や、地域の魅力を創造する「まちの担い手」を増やすための場や仕組みをデザインします。(広報広聴課・商工観光課)	「いこまち宣伝部」や「IKOMA SUN FESTA」の主たる参加者である20～40歳代の市民に、まちの魅力を体験し推奨できる場を提供できた。こうした場をきっかけに「いこまとりっぷ」など、市民が主体的に地域に参画し新しいまちづくりプロジェクトが起きた。
		①3 基本構想に掲げる将来都市像の実現に向け、生駒らしい魅力を形成し、差別化につながる戦略的な事業の支援や関係部門との連携を支援します。(広報広聴課)	「PR・コラボ相談室」を開催し、各課の広報支援にとどまらず、将来都市像の実現に向けた事業企画を支援した。この結果、庁内6課が連携する「スタイリングウィーク」の開催につながり、脱ベッドタウンに向けた新しい価値観を共有することができた。
		①4 生駒らしいライフスタイルを市内外に発信・体感する場をつくることで、共感と推奨を広げ、都市イメージを形成します。(広報広聴課)	ポータルサイト「good cycle ikoma」では、市内で多様な暮らし方・働き方・住まい方・活動を紹介し、総合計画が目指す将来都市像を体現する人達を可視化することにより、都市イメージを共有することができた。
		市民実感度	
細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
公民連携	②民間企業等のノウハウやアイデアを活用した公共サービスが提供されやすい仕組みが整っている。	②1 公民連携窓口を設置するとともに、公民連携に向けた運用ルールを整備します。(ICTイノベーション推進課)	公民連携窓口として「生駒市協創対話窓口」を開設した(令和2年3月17日)。事業者等による提案先の明確化や庁内における公民連携の知見を集約することによる機会損失の防止、積極的な姿勢を示すことによる他自治体との差別化等が期待できる。テーマを問わず事業者等が提案できる「フリー型」と市がテーマを示す「テーマ型提案」の2類型を準備することで、双方に利用しやすい制度設計を行い、民間企業等のノウハウ・アイデアを活用できる体制を整えた。
		②2 公民連携の庁内外への周知や連携促進に取り組みます。(ICTイノベーション推進課)	生駒市協創対話窓口開設の報道発表を1回、公民連携推進ワークショップを1回実施した。庁内向けに、地域課題を明確化する「公民連携による課題解決ワークショップ」を実施し、5つの課題を抽出した。それらをもとにした事業者等と対話する庁外ワークショップは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったが、次年度以降に情勢を鑑みて対話の場を検討する。
		市民実感度	

多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標																				
全ての取組に協創の考え方を取り入れた。「PR・コラボ相談室」ではデザインの専門家から各課の事業構築や広報支援を受けた。また、「いこまち宣伝部」は富士フィルムイメージングシステムズ株式会社から一眼レフカメラの貸出などの協賛を受け、市民の皆さんが多様なまちの魅力を市の広報ツールで発信した。「IKOMA SUN FESTA」は、61の事業者や団体の協力を得、そのうち29は新規出店・協力であった。他にも、ポータルサイト「good cycle ikoma」の「いこまのまち」掲載店や教室が日替わりで出店する「いこまフードフェスタ」を近鉄百貨店生駒店との共催で行うなど多様な主体の参画・推奨をかなえながら、都市イメージを発展させることを心掛けている。	都市の選択要素には「都市イメージ」という無形で曖昧なもの大きなシェアを占める(出典:生駒市イメージ調査)が、その都市イメージは「情報」によって作りだされるものと言われている。そのため、生駒市が目指す将来都市像を実現するには、単に情報量を増やすのではなく、発信すべき情報である「新しい暮らし方や働き方を実践する人や活動」を持続的に創出し続けることが何よりも必要となる。	① 推奨意欲を持つ人の割合(%) <table border="1"> <tr><th>年次</th><th>指標値</th></tr> <tr><td>H27</td><td>50.3</td></tr> <tr><td>H28</td><td>53.7</td></tr> <tr><td>H29</td><td>62.7</td></tr> <tr><td>H30</td><td>58.7</td></tr> <tr><td>R1</td><td>61.3</td></tr> <tr><td>R2</td><td>63.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td>64.5</td></tr> <tr><td>R4</td><td>66.0</td></tr> <tr><td>R5</td><td>67.5</td></tr> </table>	年次	指標値	H27	50.3	H28	53.7	H29	62.7	H30	58.7	R1	61.3	R2	63.0	R3	64.5	R4	66.0	R5	67.5
年次	指標値																					
H27	50.3																					
H28	53.7																					
H29	62.7																					
H30	58.7																					
R1	61.3																					
R2	63.0																					
R3	64.5																					
R4	66.0																					
R5	67.5																					
課題解決のために必要な要素 <input type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (都市ブランド形成に関する全庁的な取組の推進)		① 都市ブランド構築のための庁内事業連携・支援件数(件) <table border="1"> <tr><th>年次</th><th>指標値</th></tr> <tr><td>H29</td><td>4</td></tr> <tr><td>H30</td><td>6</td></tr> <tr><td>R1</td><td>9</td></tr> <tr><td>R2</td><td>12</td></tr> <tr><td>R3</td><td>15</td></tr> <tr><td>R4</td><td>18</td></tr> <tr><td>R5</td><td>21</td></tr> </table>	年次	指標値	H29	4	H30	6	R1	9	R2	12	R3	15	R4	18	R5	21				
年次	指標値																					
H29	4																					
H30	6																					
R1	9																					
R2	12																					
R3	15																					
R4	18																					
R5	21																					
進捗度選択の理由 C2 都市ブランド形成を担当する課だけではかなえることができず、今後、全庁をあげて脱ベッドタウンに向けた取組を創出する事業立案が必要と考えるため。		目指す値 実績値 R1 R1 9 9																				
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標																				
・外部より講師を迎え公民連携に関する庁内ワークショップを実施し、26課が参加した。(課長補佐/主幹/係長級) ・市内郵便局と地域活性化、市民サービスの向上及びSDGsの達成を目指し包括的連携に関する協定を締結した。(令和2年3月25日)	庁内に対しては公民連携をより積極的に活用するための周知と意識の醸成、事業者等へは協創対話窓口の周知が必要と考えている。庁内に対しては各課への公民連携の意義や効果を説明し各課による課題提案を促進する。また、事業者等に対しては、テーマ型提案の運用や積極的な広報等で連携先として選ばれやすい環境を整備する。	② 連携窓口を通じた民間企業等からの相談・提案件数(件) <table border="1"> <tr><th>年次</th><th>指標値</th></tr> <tr><td>H30</td><td>0</td></tr> <tr><td>R1</td><td>2</td></tr> <tr><td>R2</td><td>4</td></tr> <tr><td>R3</td><td>6</td></tr> <tr><td>R4</td><td>8</td></tr> <tr><td>R5</td><td>10</td></tr> </table>	年次	指標値	H30	0	R1	2	R2	4	R3	6	R4	8	R5	10						
年次	指標値																					
H30	0																					
R1	2																					
R2	4																					
R3	6																					
R4	8																					
R5	10																					
課題解決のために必要な要素 <input type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (各課との連携と周知)		目指す値 実績値 R1 R1 2 0																				
進捗度選択の理由 C2 予定通り協創対話窓口を開設し、ガイドラインを制定した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公民連携ワークショップを中止しそれに伴う広報も取りやめたため、十分な周知ができなかった。中止となったワークショップについては次年度以降に情勢を鑑みつつ実施するなど、公民連携促進のために庁内外に積極的な働きかけが必要であると考える。																						

A: 5年後のまちをすでに実現している B1: 5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2: 5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる
 C1: 5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2: 5年後のまちの実現には努力が必要である C3: 5年後のまちの実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの5年後のまちの実現に向けた提言等

5-2-1 商工観光

細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
企業立地	①学研生駒テクノエリア等において、自然環境と調和した良好な工業団地の形成が行われている中、製造業を中心とした企業立地が進んでいる。	①1 補助制度等立地企業への支援の推進及び恵まれた立地条件であることをPRしながら関係機関と連携し、企業や研究施設の誘致に取り組めます。(商工観光課)	モノづくりフェア2019、メッセナゴヤ2019、国際フロンティア産業メッセ、企業異業種交流会に市内事業所と共に参加し、販路拡大を支援するとともに、生駒市・生駒商工会議所ブースを設け、生駒市の企業立地についてPRした。その他に、奈良県企業立地セミナーに参加して生駒市のPRを実施した。
	市民実感度		
商工業	②中小企業の安定的な経済活動及び多様な働き方(起業、サテライトオフィスの利用、企業への就職等)が進んでいる。	②3 地域活性化を図るため起業支援を行います。(商工観光課)	生駒市内で創業や第二創業を考える人への創業支援として創業支援セミナーを実施し、30名が受講した。また、おちやせんでのチャレンジ商品企画に8事業者の応募があり出品があった。なお、チャレンジ商品に参加した1事業者が奈良ビジネスコンテストに応募し、賞を受賞している。
	市民実感度	②4 子育て中の女性や高齢者等多様な人材への就業支援を行います。(商工観光課)	ハローワーク奈良と連携し、合同就職面接会を2回(9月、2月)、子連れで就職面接会を1回(11月)、就職セミナーを1回実施した。各面接会に延べ71名の参加があり、その内15名が採用され、市内事業者の人員確保につながった。
		②5 多様な働き方の啓発やテレワーク&インキュベーションセンターの利用促進を行います。(商工観光課)	働き方改革推進イベント(市民向け及び事業者向けセミナー)を実施の他、指定管理者による交流会や勉強会等も複数開催した。着実に利用者数を伸ばしており、市内事業者の働き方改革につながった。
観光	③PR強化や、ハード面の整備により、市民中心であった本市の観光について市外での認知度が向上し、観光客数が増えている。	③3 ハイキング道や生駒駅周辺等の多言語化を含むサインや、高山竹林園等の施設を段階的に整備します。(観光振興室)	平成30年度より市民団体やボランティアの方々と検討を重ねてきたことを、ハイキング道のサイン整備という形で実現。市外の利用者からも好評評価をいただき、結果として、ガイドの利用者数増加につながった。
	市民実感度	③4 外国人観光客の受け入れに積極的な観光関連事業者のハード、ソフト両面による体制整備のための支援をします。(観光振興室)	生駒市観光協会と協働で、インバウンド関連のセミナーやワークショップの開催、WEBによるPRの支援等を実施したところ、延べ48社の参加があり、機運の高まりが確認できた。未参加の事業者にとっては、受入体制の必要性を認識し、準備を始める良いきっかけとなった。
		③5 生駒市観光協会の活動や地場産業のPR等を支援します。(観光振興室)	生駒市観光協会を主体として、外国人観光客向けコンテンツ11コースの造成、外国人モニターの誘致やプロカメラマンによる販売促進ツール用写真の撮影、交流会等を実施し、事業者間の連携やそのことに起因する新商品開発にも繋がった。

多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
学研推進機構及び4市町(京田辺市、木津川市、精華町、生駒市)で協力し、関西文化学術研究都市への企業立地及び誘致を促進させる取組を行った。	企業立地セミナーについて同じ企業の出展が増加傾向にあるため、新規参加企業の発掘を行う。	① 企業立地件数(件)
	課題解決のために必要な要素 <input type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()	
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	目指す値
C1	モノづくりフェア2019、メッセナゴヤ2019、国際フロンティア産業メッセ、企業異業種交流会、奈良県企業立地セミナーに積極的に参加し、生駒市の企業誘致をしてきたが、他の手段を検討していく必要があると考えるため。	R1 20
実績値		R1 21
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
・商工会議所をはじめ、奈良県よろず支援拠点、日本政策金融公庫、奈良県信用保証協会と連携し事業者の支援ができた。 ・ハローワーク奈良と企画段階から連携し、子育て中の女性が参加しやすい環境づくりを行い、子連れ就職面接会を実施できた。	当市で実施している各支援策は、開催時期や目的、参加対象が異なっていたため、支援策間の連携が取れていなかった。しかし、参加者の中には、創業セミナーを受講し、その後チャレンジ商品に参加するなど複数の支援策を受ける方も出てきていることから今後は、各支援策をまとめ、総合的に支援していきたい。	② 展示会展支援件数(件)
	課題解決のために必要な要素 <input type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input checked="" type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()	
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	目指す値
C1	創業支援、展示会への出展支援、チャレンジ商品などの支援策を実施しているが、それぞれ独立した事業となっていた。それぞれの事業のつながりを更に持たせた方が事業者にとっては、より効果の高い支援策となると考えるため。	R1 17
実績値		R1 29
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
・大和郡山市観光協会や東大阪コミュニティニュースの会、生駒山系広域利用促進協議会等、複数の市外団体が主催するイベントに観光ボランティアガイドが、企画段階から協力し、結果として多くの市外客誘客に繋がった。 ・天理教災害救援ひのきしん隊のボランティアの支援を受け、くろんど池周辺ハイキング道の整備を行った。	市内経済の振興に繋がる観光客数増加のためには、引き続き、生駒市を訪れた観光客が、快適に周遊するための、受入体制の整備とその支援が欠かせない。併せて、観光プロモーションや広域連携等による直接的な、市外からの誘客そのものに繋がる施策に着手する必要がある。	③ 観光ボランティアガイド利用者数(人)
	課題解決のために必要な要素 <input type="checkbox"/> 財源 <input type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制 <input type="checkbox"/> その他 ()	
細分野の進捗度	進捗度選択の理由	目指す値
C1	観光関連事業者において、広く観光客を受け入れるための準備や機運の醸成が進みつつあるが、インバウンド向けの多言語案内や予約システムの構築など未整備な部分は多く、引き続き支援を必要とするため。	R1 2,424
実績値		R1 2,819

A:5年後のまちをすでに実現している B1:5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2:5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる
C1:5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2:5年後のまちの実現には努力が必要である C3:5年後のまちの実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの5年後のまちの実現に向けた提言等

5-3-1 農業

細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
農地保全	①既存農業者や新規就農者等を支援することにより、農地が適正に保全されている。	①2	新規就農者や担い手を支援するため、農地の斡旋、農地情報の提供、営農相談、設備投資支援を行います。(農林課・農業委員会事務局)
		①3	有害鳥獣被害対策として、防護柵や捕獲檻の設置、狩猟免許取得時に要する費用を支援します。(農林課)
		①4	獣害や遊休農地の増加等、地域農業の課題を解決するため、地域の農業者等の話し合いの場をもちます。(農林課・農業委員会事務局)
		市民実感度	
細分野	5年後のまち	5年後のまちの実現に効果のあった取組 (効果のあった取組から順に)	取組による5年後のまちへの効果の内容とその根拠
農地活用	②都市住民等による遊休農地の有効活用が進められている。	②1	遊休農地の解消を図るため、市民の野菜づくりや、季節感を活かす地域活動を推進していくための相談や支援を行います。(農林課)
		②2	遊休農地活用事業の利用者に対して、遊休農地利用開始時に草刈り、耕耘等を支援します。(農林課)
		市民実感度	
		細分野	5年後のまち
地産地消	③市民等が農と親しむことで、地産地消が進んでいる。	③1	新規就農者の学校給食への出荷を調整し、地場野菜等の生産拡大や地産地消に取り組んだ。
		③2	希望する自治会に移動販売を実施し、農業者団体と自治会との連携による地域活性化や地場野菜等の魅力発信に取り組んだ。また、農業者が主体の朝市において、場所の提供や広報紙・HPへの掲載などのPR支援を行い、地場野菜の販売促進につながった。
		③4	親子ふれあい農業体験、農業祭の芋堀り体験及びスタイリングウィークにおける農業セミナーを開催し、農業に親しむ機会づくりや農業者と都市住民との交流を図り、都市住民の地元農業への理解を深めた。
		市民実感度	

多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
<p>集落座談会において、農業委員、農地利用最適化推進委員、農家区長及び農業者が集落の課題解決方法を検討した。</p>	<p>集落ごとに課題解決に向けた話し合いを実施し、解決方法を模索しているが、集落全体でしっかりと課題を共有し、解決策への理解を醸成することが求められる。</p>	<p>① 青年新規就農者数(人)</p>
<p>課題解決のために必要な要素</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p>		
<p>細分野の進捗度</p> <p>B1</p>	<p>青年新規就農者は順調に増加してきており、また、集落での有害鳥獣対策への取組も始まり、農地の適正な保全に向け順調に進んでいるため。</p>	<p>目指す値</p> <p>R1</p> <p>14</p> <p>実績値</p> <p>R1</p> <p>14</p>
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
<p>遊休農地活用事業をPRすることで、市民による農地の有効活用を図った。また、農地の活用を進めるため、農業ビジョン推進懇話会を2回開催した。</p>	<p>遊休農地活用事業において、利用希望者のニーズにあった農地が足りない状況にあり、活用が進んでいない地域もあることから、制度の周知を図り、本事業に適した遊休農地の貸出登録を進める。</p>	<p>② 遊休農地活用事業面積(m²)</p>
<p>課題解決のために必要な要素</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p>		
<p>細分野の進捗度</p> <p>B2</p>	<p>遊休農地活用事業への登録は増えているものの、上記のような課題もあり活用事業面積は目標を下回った。5年後のまちの実現に向けて利用者のニーズにこたえられるよう、様々な農地を充実させる必要があるため。</p>	<p>目指す値</p> <p>R1</p> <p>53,285</p> <p>実績値</p> <p>R1</p> <p>50,406</p>
多様な主体との協創による取組	5年後のまちを実現するにあたっての課題とその解決方法	指標
<p>地産地消を推進するため、学校給食センターと連携を図るとともに、学校給食への食材の提供や農業者団体や自治会と連携して移動販売を実施することにより、市民の地場野菜等の購入を促すとともに、地域のさらなるコミュニティの形成・発展が生まれた。</p>	<p>地産地消の推進にあたっては、生産者が足りない状況にあるため、担い手農業者の確保や小規模農業者の収益増加に向けた支援を行う。</p>	<p>③ 地場野菜等を地元飲食店が使用、事業者が販売している件数(件)</p>
<p>課題解決のために必要な要素</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 財源 <input checked="" type="checkbox"/> 人員 <input type="checkbox"/> 組織体制</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p>		
<p>細分野の進捗度</p> <p>B1</p>	<p>移動販売が軌道に乗ってきているが、担い手の収益増加につながるよう、飲食店等へのヒアリングを実施する等、地産地消の需要把握に努める必要があるため。</p>	<p>目指す値</p> <p>R1</p> <p>14</p> <p>実績値</p> <p>R1</p> <p>14</p>

A: 5年後のまちをすでに実現している B1: 5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2: 5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる
C1: 5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2: 5年後のまちの実現には努力が必要である C3: 5年後のまちの実現には相当努力が必要である

総合計画審議会からの5年後のまちの実現に向けた提言等
